

【現状】

- B5G基金の創設・テストベッド整備により、B5G関連の研究開発を推進する環境が構築され、B5G推進戦略等に基づき、要素技術の確立等を目指した研究開発が推進されてきた
- ITUのビジョン勧告の策定も進められており、今後、3GPPにおける6G標準化も本格化していくことから、標準化・社会実装に向けた取組の重みが一層増していく局面へ移行しつつある
- コンソーシアム設立以来、各国政府がBeyond 5G/6Gに対する大規模な研究開発投資を表明するなど研究開発競争が激化するとともに、経済安全保障関連の状況、特に半導体、エネルギー等のサプライチェーンをめぐる環境が大きく変化したほか、大規模な衛星コンステレーションによる通信サービスの活用が進むなど、新たな局面に対応すべく、より戦略的な国際協調の取組の重要性が増している状況
- また、AI技術の進化により、リアルタイムコミュニケーションや情報収集等におけるAIの活用が進みつつあり、通信の活用の在り方、通信に求められる要件等も変容していく兆しが出てきている
- こうした中、B5G関連の研究開発を更に推進するための新たな基金が造成され、今後、社会実装・海外展開に向けた戦略的な開発案件に対して重点的に支援する体制が整いつつあるところである。

【課題】

- 新たなフェーズを迎えつつある中、5Gの取組をシームレスにB5Gにつなげていくためには、5GMF、Beyond 5G推進コンソーシアム、Beyond 5G新経営戦略センター等、関係する既存団体の整理統合等を含めた一層の連携強化により、我が国の総力を結集し、より戦略的かつ機動的な体制を構築すべきではないか
- その上で、研究開発の重点化に合わせた、戦略的な国際連携や効果的な情報発信に取り組むべきではないか
- その際、通信が我が国の基幹インフラの一つであることを踏まえ、半導体やエネルギーといった他の国家戦略との連動を意識しながら推進していくことが必要ではないか